

City-Region MAPプログラム〔第3回〕講座一覧

2025年2月現在
SCI-Japan

講義時間は18:00～19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

No.	開催日	曜日		【シリーズ名】講座名	講師	講座概要
					氏名（敬称略）	
-	2024/8/28	水	S	開講式&懇親会付（ハイブリッド開催）	南雲 岳彦	16:00～17:50 開講式、18:00～19:30 懇親会 都内会場とオンラインのハイブリッド開催
1	2024/8/29	木	A1	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ1	南雲 岳彦	3回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説。
2	2024/9/3	火	C3	UDCIによる公・民・学連携のまちづくり	三牧 浩也氏	スマートシティプロジェクトの推進には、総合的な地域運営を担う公的機関（公）、個々のサービスや技術を提供する民間企業とこれらに享受する生活者（民）、そこに多様な専門領域の先端的な知見を持ち込む専門家や研究者（学）の連携が重要である。こうした多様なセクターの領域横断的かつ柔軟な連携を生み出し、まちづくりに落とし込む実践活動を行う仕組みの構築は簡単ではないが、全国各地に広がっているUDC（アーバンデザインセンター）において、様々な実例が生み出されつつある。本講義では、その代表例として、柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）の仕組みと実践例を具体的に紹介するとともに、全国各地の事例にも触れながら、「公・民・学の連携」によるまちづくりのポイントと、スマートシティプロジェクトの推進体制としての可能性・課題を紹介する。
3	2024/9/10	火	A2	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ2	南雲 岳彦	3回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説。
4	2024/9/12	木	A3	地域幸福度（Well-Being）指標とスマートシティ3	南雲 岳彦	3回のシリーズで、地域幸福度（Well-Being）指標の概要・仕組み、全国アンケート調査の内容、同指標を活用した現状把握や目標設定の方法論、先進自治体での活用事例等を詳しく解説。
5	2024/9/17	火	F2	日本における場のWell-Being	内田 由紀子氏	well-beingはどのようなものか。個人の幸福は個人の感情やスキル・能力・状態だけによって得られるものではなく、他者や社会とのかかわりの中で感じられる。特に日本社会においては、個人の努力やスキルだけでなく、場の空気や状態、制度設計など、場の中に存在する様々な要素がwell-beingと強く結びついている。これについて私たちの研究グループは文化心理学の観点から、well-beingを場の中で形作られるものであるというように定義し、感情や幸福感を社会・文化的コンテキストからとらえなおしている。本発表においては日本社会に特徴的な協調性とwell-beingとのかかわりを論じるとともに、職場や地域などの「場」において実現されるウェルビーイングの測定や理論について紹介する。
6	2024/9/19	木	A4	まちづくり共創デザイン論	谷川 じゅんじ氏	前橋市や会津若松市などで各地のスマートシティに取り組んでいる谷川氏がまちづくり・空間プロデュースの実践事例とともに地域におけるウェルビーイング、サステナビリティの実現方法を解説。
7	2024/9/25	水	E1	都市OS／データ連携基盤（総論）	土屋 俊博氏	スマートシティにおいて具備されるべきと言われている「都市OS／データ連携基盤」についての総論の解説です。その定義や検討の経緯、スマートシティ関連事業やデジタル田園都市国家構想交付金等を活用した全国での整備状況、作り方や使い方などについて事例を交えて紹介します。本講座を通じて今後、各地域においてどのように整備していくべきか、どのように利活用することができるのかについて考えるきっかけとします。

City-Region MAPプログラム(第3回)講座一覧

講義時間は18:00~19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

No.	開催日	曜日	【シリーズ名】講座名	講師	講座概要
				氏名（敬称略）	
8	2024/10/3	木	F3 人口減少・成熟社会のデザイン — AIシミュレーションと都市・地域	広井 良典氏	日本の人口は2008年をピークに減少に転じ、現在の出生率が続けば2050年過ぎには1億人を切る事が予測されています。これは人口や経済が拡大を続けるという、明治以降100数十年にわたって続いてきた社会のあり方からの根本的な転換を意味します。こうした中で、人々の価値観や行動、東京と地方の関係、都市や地域、国土のあり方はどう変容していくのか。こうしたテーマについて、AIを活用して行った未来シミュレーションやウォークアブル・シティ、生態都市（エコロジカル・シティ）、鎮守の森プロジェクト等幅広い視点から考え、今後のビジョンを構想したいと思います。
9	2024/10/16	水	F4 都市と空間コンピューティング：都市がエージェントになる世界	豊田 啓介氏	スマートシティと呼ばれる領域には、意外なほどデジタル空間記述、特に動的な記述とそれによるエージェントの記述環境、およびその結果としての高次情報統合のしくみとビジョンが含まれていません。そうした動的空間記述の必要性と可能性、その結果として環境とエージェントがシームレスになっていく傾向や、それらの技術やしくみが空間AIという可能性に収束していく流れを概観します。
10	2024/10/22	火	E2 柏の葉データプラットフォームの共同利用について（事例共有）	石井 佑介氏	千葉県柏市の柏の葉スマートシティでは、パーソナルデータ流通基盤や住民ポータル等で構成される「柏の葉データプラットフォーム」を、2020年11月より住民向けに提供開始し、現在は住民および事業者ニーズを取り込み、日々改善を重ねている段階です。2023年4月より、柏の葉スマートシティで展開している各種サービスを全国の自治体向けに共同利用を勧める活動を開始しております。共同利用の第一弾として、兵庫県神戸市にてトライアル利用を開始しており、フィジビリティを確認済みです。今後もデジタル庁の方針に従い、基盤の乱立抑制・共同利用先の拡大に向けて全国の自治体にアプローチを計画しております。本講座では、この柏の葉データプラットフォームの共同利用についてご紹介いたします。
11	2024/10/30	水	C1 市民参加型まちづくりへの取り組み	多田 功氏	「OASISmap」は、参加型GIS（地理情報システム）を活用した市民参加型まちづくりのツールとして開発されました。このツールを通じて、地域の皆さんの日常的な活動や来訪者の感情や幸福度をリアルタイムで記録し共有することができます。管理者側は収集されたデータをヒートマップで可視化し、地域の幸福度に関する情報を把握することができます。この情報を基に、地域の課題解決や地域の皆さんの生活の質向上を図る政策立案に役立てることを目指しています。また、アンケートの結果などの融合により、住民の意見や感情を反映した効果的なまちづくりの手法についてもお話しします。
12	2024/11/12	火	C2 対話から始まる合意形成とプロジェクトの実践	藤井 靖史氏	スマートシティとは何か。テクノロジーの活用もトピックの一つですが、重要な側面として「合意形成」があります。この講義では、現場における「対話から始まるプロジェクトの実践」についてお伝えし、皆さんと一緒に考えます。具体的には、企業が自治体と協力して進めるプロジェクトの事例や、自治体における総合計画の策定から実践に至るプロセスを取り上げ、世界の中で戦える日本を実感できる機会を提供します。ベースとなる考え方：本講義の基盤となるのはポスト構造主義とプリコラージュの概念です。文化人類学的な視点から、我々が何を実践すべきかを深く考えます。平易な言葉を使いながらも深い思索を促し、エンターテインメント性も取り入れた内容とします。
13	2024/11/14	木	B3 先進事例の共有3 ～ 東広島市 大学と連携したスマートシティ・まちづくりについて	栗栖 真一氏	学園都市としての東広島市の成り立ちと、自治体が地元大学と未来のビジョンを共有しながら、これまでにない連携を行い、持続的な地域の発展と大学の進化をともし目指す地方創生の新たな形である「Town & Gown構想」の概要を紹介し、こうした取り組みに参画している企業と共創したスマートシティ構築に向けた取り組みを中心に、スマートシティ構築に向けた東広島市の考え方や課題、今後のビジョン等を紹介する。

City-Region MAPプログラム(第3回)講座一覧

講義時間は18:00～19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

No.	開催日	曜日	【シリーズ名】講座名	講師	講座概要
				氏名（敬称略）	
14	2024/11/19	火	B2 先進事例の共有 2 幸福感あふれる持続可能なまちづくり～デジタル・スマートシティ浜松の取り組み～	水谷 供子氏	浜松市では、官民連携によるデジタルを活用した地域課題の解決に取り組んでいます。令和5年9月に経済産業省からデジタルライフライン全国総合整備計画の中間とりまとめが公表され、本市の天竜川水系がアーリーハーベストプロジェクトのドローン航路先行地域に選定されました。現在、今年度の実装に向け官民連携でドローン利活用を推進しているところです。講座では、これまでの経緯とリアルタイムな取り組み状況などお伝えします。
15	2024/11/28	木	C4 市民参加ワークショップのデザインとファシリテーション	山崎 真湖人氏	スマートシティでは多様なステークホルダーが関わる中、人々の多様性を理解・考慮しながら、既存の枠にとらわれない発想で課題解決を進めていくことが求められます。ワークショップは、こうした状況に適した手法です。効果的に参加者の意見や関与感を引き出しながら、効率的に解決策を導くためのワークショップを、どのようにして設計し、実行するのか。参加者に創造性を発揮してもらうために、どのような問いかけをするよいか。市民とともに考えるスマートシティの実践的ノウハウをお伝えします。
16	2024/12/5	木	D2 AIと憲法	山本 龍彦氏	『AIと憲法』の著者である山本教授に、AI時代における憲法論（個人の尊重・プライバシーや民主主義・選挙制度のあり方など）についてお話いただく予定です
17-1	2024/12/7	土	C5-1 ワークショップ運営（実践）	多田 功氏 大石 将生氏	<p>※講義時間 13:00～17:00。以下2回のうち、どちらかを受講していただきます。 12/7 リアル開催（東京／神谷町、MURCセミナー室） 12/14 オンライン開催</p> <p>主に自治体職員向けに実施している地域幸福度（Well-Being）指標を活用した政策デザインワークショップを体験していただきます。</p>
18	2024/12/12	木	D1 スマートシティと災害対策基本法 ～ 現状と目指すべき姿	尾形和哉弁護士、 波多江崇弁護士、 橋本大智弁護士	防災・減災を目的とした、都市のスマートシティ化は、東南海大地震等への備えの観点からも重要な課題です。災害対策関係法は、災害対策基本法を中心に、予防（災害発生前）、応急（発災直後）、復旧・復興の各フェーズについて個別の法律から成り立っています。本講演では、特に、応急（発災直後）フェーズにおける災害対策基本法の実情と課題について概説の上、今後の目指すべき災害対策について議論します。また、防災・減災のためには、私たち市民一人一人の平時からの備えや心構えも重要です。自治体として、そのような意識変容を促していくことも必要です。今後のあるべき防災・減災対策についても、意見交換させていただければと思います。
17-2	2024/12/14	土	C5-2 ワークショップ運営（実践）	多田 功氏 大石 将生氏	<p>※講義時間 13:00～17:00。以下2回のうち、どちらかを受講していただきます。 12/7 リアル開催（東京／神谷町、MURCセミナー室） 12/14 オンライン開催</p> <p>主に自治体職員向けに実施している地域幸福度（Well-Being）指標を活用した政策デザインワークショップを体験していただきます。</p>
19	2024/12/18	水	A7 都市経営人材・リーダーシップ論 2 （首長による都市経営人材論）	松尾 崇氏 平谷 祐宏氏 南雲 岳彦	現役市長としてまちづくり、都市経営を実践している松尾市長、平谷市長をゲストにお招きし、都市経営人材に求められる資質や、実践のなかで得られた教訓・課題等について議論する。

City-Region MAPプログラム(第3回)講座一覧

講義時間は18:00~19:30、いずれもZoomによるオンライン授業（特に記載のない場合を除く）

No.	開催日	曜日	【シリーズ名】講座名	講師	講座概要
				氏名（敬称略）	
20	2024/12/25	水	B1 先進事例の共有 1 ～ 前橋市 共助型未来都市「デジタルグリーンシティに向けた取り組み」	茂木 勇氏	<ul style="list-style-type: none"> ・前橋市は「共助型未来都市 “デジタルグリーンシティ”」を標榜する。デジタルグリーンシティとは、リアルとデジタルが融合することで、技術が人に寄り添い、誰一人取り残されることなく、新たな価値を芽吹かせ続けるまち、を表す本市の造語である。 ・本市のスマートシティ政策の特徴は、安全性の高いデジタル個人認証「めぶくID」及びデータ連携基盤を実装するとともに、これを地元企業や金融機関など50社が出資する官民連携会社めぶくクラウド株式会社（R4年10月設立）で運営している点にある。 ・他方で、デジ田交付金Type3を活用しながら進める本市のスマートシティ政策は決してバラ色ではなく、課題も多い。本講座では、“デジタルグリーンシティ”に向けた本市の取り組みを紹介するとともに、本市が直面する課題も併せて紹介することで、望ましいスマートシティのあり方を議論するための素材を提供したい。
21	2025/1/7	火	A6 都市経営人材・リーダーシップ論 1 (アカデミアからのアプローチ)	出口 敦氏 越塚 登氏 南雲 岳彦	アーバンデザイン（都市環境・都市空間の設計）の第一人者で、東京大学スマートシティスクールの主催者である出口氏、都市OS・データ連携基盤の専門家である一般社団法人スマートシティ社会実装コンソーシアムの代表理事を務められる越塚氏をお招きし、都市経営人材育成のあり方について議論する。
22	2025/1/14	火	F1 人工知能技術とビッグデータを活用したスマート社会、Society5.0の実現	本村 陽一氏	サイバーとフィジカル空間を高度に融合する超スマート社会、Society5.0の実現には、実社会で生成されるビッグデータの活用が不可欠であり、そのために人工知能技術が有効と考えられている。実社会ビッグデータには、インターネット上のビッグデータと異なる特性があり、それを活用するためには「異質性」「多様性」「不確実性」をモデル化する必要がある確率モデリングの手法が有用である。本講座では人工知能技術のうち確率モデリングに焦点をあて、生活現象の予測・推定やレコメンドなどのAI応用システム、人やコミュニティの活動をモデル化するコミュニティ再生への取り組み(内閣府包摂SIP事業サブ課題A1)なども紹介する。
23	2025/1/28	火	A5 会津若松市におけるスマートシティの取り組み	村井 遊氏	会津若松市が復興事業のシンボルとして2011年より始めたスマートシティプロジェクト「スマートシティ会津若松」。「地域マネジメント法人主導型スマートシティ」として会津モデルが日本のトップランナーとなる現在までに推進されてきた各種プロジェクトや、会津モデルの展開と今後の10年でのスーパーシティへのステージアップ実現に向けて2019年に設立されたAiCTコンソーシアムの活動など、10年以上に亘って積み上げてきた実績から得られた、課題への対応・対策について講義する。更に、会津若松から福島県へ、そして全国へ。会津若松で得られたノウハウを生かしつつ、全国のDXに取り組む地域におけるDXモデル構築を目指した活動など、最新の活動状況も紹介。ICT等の活用により地方行政が抱える課題を解決するスマートシティの推進における課題について議論する。
24	2025/2/4	火	A8 都市経営人材・リーダーシップ論 3 (茨城県境町におけるまちづくりの推進)	野尻 智治氏	今年度（令和5年度補正）のデジ田交付金タイプ3の採択自治体で、地方におけるコンパクトシティのモデルケースとして有名な茨城県境町の橋本町長をゲストにお招きし、人口数万人規模の小規模自治体ならではのまちづくりの課題や首長のリーダーシップのあり方等について議論する。
-	2025/2/26	水	S 修了式&懇親会付（ハイブリッド開催）	南雲 岳彦	15:00~19:30 修了式・懇親会ほか 都内会場とオンラインのハイブリッド開催